

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2013年
5月10日(金)
第91号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

東京自治労連主催 4月21日

「公立保育園を守り、豊かな保育をめざす学習交流集会」続報

単組発言も確信広げる

4月21日に開催された表記の集会については、4月26日号でお伝えしましたが、続報として単組からの発言を紹介します。杉並の保護者の発言はさらに続報とします。

目黒 民営化反対、待機児童解消で運動

目黒区は公設公営保育園が21園あったが、指定管理者制度を使い、1園は新園を近くに立てて廃園、2園目はビルの中に園庭がない保育園として設置、3園目は1年かけて既存園を引き継ぎ昨年4月からスタート。1年で主任を含め保育士が10人、給食調理要員が4人中3人退職する状況。この民営化の計画の進捗状況を見るということだったが、財政悪化を理由に昨年11月に公設公営18園のうち4園を民営化、指定管理委託している3園も民設民営を検討する計画素案発表。500件の意見が寄せられたが、民営化期限の1年延長と現在在園中の子どもが全部卒業してから民営化するとの一部変更したのみ。

4園は老朽化し建替えが必要な園、仮設をつくって戻るときは子ども達だけが戻ることになり、二重の不安を子どもに負わせる。とても不安。組合は、父母会に呼びかけ、一緒に、垣内先生や世田谷の委託園の園長の安川先生を講師に学習会を開催している。

待機児童はすごく多い。昨秋に、保問協と一緒に、認可保育園の増設と公立保育園なくすの署名を、宣伝ティッシュもつくって宣伝。しかし、2月26日に区議会で陳情否決。25年度の待機児童は814人と発表。3月21日に区に要請した。認証保育所や乳児検診をやる保健所前でビラを配布して知らせた。若いお母さんにツイッターでも知らせてもらい、30人が集まった。2回異議申し立ても行った。昨日も、朝日新聞記者を囲み保護者交流会をやっている。現役だけでは出来ない運動。保問協、OGと一緒に運動している。「ひまわり」という保護者向けのビラや保育パンフも作成活用している。区労連の春闘ビラの二面を待機児童解消のビラとし配布。いろんな人の力を借りて運動を広げている。ツイッターの活用では若い組合員に依拠している。

世田谷 運動の中から公立の役割見えた

公的保育福祉を守る世田谷実行委員会が再開して3年、「子ども・子育て新システム」では何回か区議会陳情も行ってきた。法案が通ったもとの、どんな課題で署名を進めるか検討し、待機児童解消にかかわり、社会福祉法人立の認可保育園を増やしてほしいことと区立保育園を減らさないでほしいとの2項目で議論した。私立保育園メンバーから、区立保育園を増やしてほしいとの中身にしよう意見が出され、父母も賛同の意見が出された。「区議会では通らない、本当にいいのか」との問いに、陳情は正論を区議にも町の人にも訴える役割との議論で、その2項目の署名用紙となった。

区議会議員をまわったところ、民営化に反対する議員から、「民営化方針に大きな問題として何かあるか根拠がほしい」と意見が出された。また、「公立保育園の存在意義は何ですか」といろんなところで聞かれた。それが運動を通じて見えてきた。自治体が子どもの命や育ちを本当に守り、お父

さんお母さんの願いに応えきろうとしているかということだ。待機児童解消のために、社会福祉法人は認可保育園をつくるために身を削ってやっている。本園から分園が分かれていくと、分園に主任級がはがされていく。本園は若い保育士で何とかやっている。引き継ぎも精一杯の状況。今年1月に成城つくしんぼ保育園が出来た。三鷹のつくしんぼ保育園が、3年前に世田谷つくしんぼ保育園をつくり、3年目で園長が成城つくしんぼ保育園に異動。園長が「まだ土台が出来ていないところで異動する」として、一クラス一クラス頭を下げた。区立保育園を減らすことは、さらに社会福祉法人を追いつめることになる。

保育の質を守るという点では、区立保育園をなくす、減らすとはならない。区立保育園を増やすという道が見えてくる。区立保育園を増やすことを町中で訴えて理解されるのかな思っていたし、公立は税金を使っているとか企業の方が良いとかテレビの論調の中で、どうなんだろうと思っていた。この間、認可保育園を増やしてほしいとのビラをつくり、宣伝署名をやってきた。「孫が保育園に入れなくて困っている」とおじいちゃん、青年が近寄ってきて署名してくれた。下北沢は若者の町で、署名が集まらないことで有名だが、1時間で170筆以上集まった。反応が違ってきている。

安心してこともを保育園に預けたい、基準のしっかりした保育園を増やしてほしいなどの父母の願いは、町の人にとってもまっとうな願いなんだなというのが感じていることだ。

宣伝やっている中で、保育士の思いが違ってきている。お父さんお母さんが一緒に署名に立ってくれる。いままでどきどきしながらやっていたのが、自分たちの保育への思いとお父さんお母さんの願いが共にあると感じたとき、一歩踏み出せるんだと思う。若い保育士が身体を乗り出すように訴えているのを見ると、私たちの運動の展望があるなど感じ、がんばっていききたい。

練馬 保護者と待機児童解消の取り組み

練馬では毎年待機児童が500人位出て、認可保育園に入れないう子が1000人位です。保育園にどうやって入れるか関心が高い。練馬保問協と父母連が一緒になって、ここ数年入園説明会を開いている。保護者からの点をどう取るのかの質問に、すでに入園している先輩父母から具体的なアドバイスを行っている。2月中旬に入園の通知が出た後、入園説明会でつながりの出来た父母にメールを送った。「おかげで入れた。ありがとう」の返事の方で、「入れませんでした。どうしたらいいのでしょうか」との深刻なメールも。4月17日に、保護者を緊急に集めて状況を聞こうと会を開いた。4組の人が来た。「とりあえず認証保育所に入れた」、「認可保育園に入るのがこんなに大変だったら練馬区に超してくるんじゃないかった」、「窓口で就業状況を話し、80点。ほぼ満点でどこか入れるでしょう」と聞いた。ネットで調べたら80点でも入れないと慌てて認証保育所を見学、多くが満杯だったが、たまたま空いているところがあり、入れた、「窓口でなぜ入れないのか聞いたら、こういう状況にあるのも区長の方針です。区長を選んだのはあなた達でしょうと言われた」、「1歳児の時、認可保育園に入れず認証保育所に。2歳児でも認可に入れずまた認証保育所。認証保育所は3歳から預からないから、本当じゃない。どうしたらよいか分からない」などの声が出された。

会を開くにあたり、所管の教育委員会と議員に来てほしいと案内を出した。2会派6人の議員が来た。議員から「とにかく口で言ってもダメ。形に残るような異議をとねえなさい。公共施設に区長への手紙がおいてある。それを書けばいい。ホームページにも意見を出すところがある。最後は異議申し立てもあるだろう」の積極的なアドバイス。異議申し立てについては「どうしたらよいか分からないし、中心になってやってくれる人がいればねえ」との受けとめ。

入れなかった人とどうつながってゆくかが今の課題。また、あと押し一つが、共産党大山都議が議会で追及したが、練馬高等保育学園の跡地の活用について、「練馬区から何も問われてない」との都の答弁だった。これは黙っておけないと署名を検討。「区立保育園の改築で利用していた仮設園舎を今すぐ拡充して保育施設を設置してください」、「練馬高等保育学園の跡地など、国と都所有の土地に認可保育園をつくってください」との項目の署名活動と異議申し立てをしてくれる人をつつていけたらと思っている。

5月26日に東京保育合研が練馬で開催される。待機児童解消の運動された方の交流の場をもてた

らと考えている。交流と対区とともに要求をどこにぶつけるか方向を見いだせたらと考えている。保護者は、現場の私たちが待機児童解消は詰め込みじゃないんだという裏付けがほしいと思っ
ていると思う。私たちも、保護者はやっぱり認可保育園に入りたい、できれば公立保育園に入りたい
と言ってほしいと思っている。そういうつながりをこれからどうつくってゆくか模索していきたい。

保育ユニオン 保育実践と組織化つなげて

非正規の組織化を中心に組合の力を強めるという提起に係わって、公務公共一般保育ユニオンと
して、保育実践の学習・懇談に取り組み、組織化につなげる意思統一をしている。現在、文京、墨
田、大田、東久留米、中野、豊島、足立で取り組まれている。

文京では、昨年6月から連続講座として学習懇談会を二重加盟の正規職員と始めた。童歌、紙芝
居の読み方、保育で大切にすることという園長先生の話、乳幼児の発達とかかわり方を実践女子大
の柿田先生の講演など7回を重ね、7人の新しい仲間を迎えた。

大田では、盛りだくさんの非常勤懇談会を開催。正規組合が絵本の話、とんとんとめてくださ
いな読み聞かせの実践、遊びのヒント交流会、幼児保育で大切にしたいことなど開催した。

墨田では、保育園給食をよりおいしく発達を保障するために役立てる連続講座、食育と学習懇談
会、調理講習会など開催。

東久留米では、ケーキとお茶を用意して、おしゃべり会、その中で少しでも組合員を増やせたら
と取り組んでいる。今年2月に2回目の正規と非正規の交流会開催。東久留米の保育をめぐる情勢
をしるということで、園長先生の話。正規34人、非正規34人が参加。その中で、嘱託職員6人募
集の情報が知らされ、組合員に知らせ、臨時から2人が採用された。レベルアップしたというこ
とで喜んでいる。

豊島区では、臨時職員の社会保険加入を逃れるために、勤務時間を切り下げようとしたが、団交
を3~4行い、かなりの部分を押し返した。豊島区職労が臨時職員からとったアンケートによって、
担当課長は「私はそれほどまでの痛みとは思わない」と話していたが、「こういう提案をするのが辛
くなった」と姿勢に変化した。このたたかいで、公共一般と区職労保育園支部との共同・協力が広
がり、臨時職員を呼んでの懇談も開催することができた。

足立区では、区職労保育園分会の呼びかけで懇談会開催、4人の非常勤職員が参加。働き方や日
頃感じていることを出し合い、非常勤職員の労働条件を改善しないと非正規・正規が互いに働きや
すくならないと話し、懇談会で1人の仲間が増え、分会結成の足がかりとなった。

非正規保育労働者の実態調査と政策づくりを進めている。目的は3つ。一つは、非正規保育労働
者の実態と要求を明らかにし処遇の改善を図っていく。短時間のパートであってもかけがいのない
役割を明らかにし、仕事に誇りが持てるようにしていく。2つ目は、この取り組みを通じて正規職
員との相互理解を深めていく。3つ目は、組織化の力にしていく。

明星大学の垣内教授を調査委員長に、東京自治労連、保育部会、公共一般、保育ユニオン、研究
者が事務局を構成。3月15日には、調査実行委員会を開催、正規7人、非正規8人の15人が参加
した。公的保育を守る輪に非正規問題を位置づけることが必要と垣内氏が強調した。

文京 民営化を押し返した教訓

文京区で10年前、公立保育園の民営化の提案がされ、それを撤回させ、公設公営で守り抜いたた
たかひの教訓を紹介したい。

2002年に駕町保育園が新設されたが、ベネッセコーポレーションに委託され、2003年に根津保
育園が新設されたが日本デイケアセンターに委託されたが、反対運動が何も出来なかったという悔し
い思いをした。さらに、2003年9月に発表された新行財政改革推進計画素案で、既存の2園の実名
をあげて民営化が出された。私たちは、2園の問題じゃない、文京全体の問題として分会として反

対していくことを確認し取り組んだ。

第一に思ったことは父母と一緒に取り組むことだが、父母連に申し入れたところ、「一緒にはできません。お互いに民営化には反対しますが、分会は分会でやってください。私たちは私たちがやります」とあっさり断られた。各園に保護者がいることを思い返し、各園の保護者とどう手をつなぐかを基本にすえ、分会主催の学習会・懇談会に来てくれた保護者と手をつなぎはじめ、運動を広げた。そのうち、父母連もすごい勢いで精力的に区に対して働きかけをおこない、あり方協議会が設置されることとなった。この協議会は、1次、2次、3次と続き、長い年月をかけて民営化について協議した。あり方協議会に必ず私たちも参加し、動向をつかみながら、父母連と一緒に手をつなぐかわりを持ってきた。段々私たちの運動が広がってゆくうちに、父母連から分会と懇談したいとの申し入れをしてもいいかとの打診も出され、父母連、あり方協議会メンバー、分会と一緒に懇談するようになった。やっと一緒に手をつなぐことがはじまった。

私たちの運動は、できるとは何でもやるということで、他区の発言にあったようなことはなんでもやった。重視にしたのは、文京では保育園門前でビラがまけるという条件があったので、闘争期には週1回ビラを配布し、民営化がなぜいけないか、阻止したい願いは何かを常に配布知らせてきた。保育の質を守りたいと宣伝したが、保護者から「保育の質ってなんですか」との素朴な疑問が出された。保育の質を検証しなければならないということで、「保育のたから」という雑誌を出した。

あり方協議会は、やがて保育ビジョンをつくることとなり、そこでは公立保育園を基本として運営し17園は守るという文言がきちとうたわれ、民営化が出されない状況となった。

この運動の教訓としたのは、私たちは、保護者と保護者が手をつないでいけるよう後押しし、バラバラにならないよう、みんな一緒に運動する接着剤のようにつなぎ合わせ、一つの大きな力にしていくことだと思ったし、それが出来るのは保育園の組合だと感じたことを憶えている。

いまだに民営化が出されていない現状は、3年6ヶ月にわたりねばり強い運動を保護者とともにつくってきたことが力になっている。これからも民営化が出されない保育園にするために、保育の質を高めながらがんばりたい。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】